TOPICS

NEWS 1 話題

理化学研究所・髙橋政代さん「2014年に注目すべき5人」に選ばれました

“Five to Watch” in 2014に選ばれた髙橋さん。

英国の科学誌『Nature』（昨年12月19日）は年末恒例の「今年話題になった10人」に加えて、2014年に注目すべき5名の研究者（“Five to Watch” in 2014）を選出。その1人に理化学研究所発生・再生科学総合研究センターの髙橋政代プロジェクトリーダーが選ばれました。髙橋さんらはJST再生医療実現拠点ネットワークプログラムの一環として、昨年7月に厚生労働省の承認を受けて世界で初めてiPS細胞（人工多能性幹細胞）を人に応用する臨床研究を進めており、今年にも滲出（しんしゅつ）型加齢黄斑変性という目の難病患者に、本人の皮膚細胞からつくったiPS細胞をシート状の網膜細胞にして移植するという画期的な治療を行う予定です。

NEWS 2 イベント開催報告

女子中高生の理系進路選択支援プログラム

女性研究者との交流を通じて理系へ進む女子中高生を後押し

パネルディスカッションの様子。

交流会の様子。

『女子中高生のみなさん最先端の工学研究に触れてみよう！』

工学の世界を知ってもらうことを目的に、昨年12月7日に東京大学生産技術研究所でイベントを開催し、女子中高生30名と保護者や教諭が参加しました。

講演では、都市基盤安全工学国際研究センターの大原美保准教授をはじめ、女性技術職員、博士課程の女子学生から、自身が行っている最先端の工学研究について紹介されました。日常生活にあまり馴染みがないと思われがちな工学研究も、環境や生体など私たちの生活に密着した分野だと説明され、参加者から高い関心が示されました。

パネルディスカッションでは、研究活動だけでなく、理系への進路に関する多くの質問があがったほか、和やかな雰囲気の中で行われた交流会では「理系に進んで困ったことは？」「今やっておいた方がいいことは？」など、さまざまな質問が飛び交いました。

アンケートでは参加者全員から「面白かった」「どちらかといえば面白かった」との回答が得られ、また「工学に興味がわいた」「理系を目指そうと思った」といった感想が寄せられました。

『深化セミナー：看護と女性』

昨年12月14日には、生命の不思議さとそれに関わる看護という職業についてご理解いただくことを目的に、長崎大学でセミナーを開催しました。

医歯薬学総合研究科の大石和代教授から、脈拍、心拍、呼吸、血圧の測定と、その値から健康状態を知る方法について発表がありました。また、看護職を志す大学院生の話に続き、妊娠中の女性からは母となる喜びが語られました。

妊婦のお腹に聴診器を当てて、胎児の心音を聴くコーナーでは、参加した女子中高生に生命の神秘や尊厳に触れる機会を与え、看護職の重要性を伝えることができました。

「助産師の道もいいなと思った」「女性が女性を助ける職業を知り、よい経験になった」「自分の進路にもっと関心が湧いた」「理系分野をもっと勉強しようと思った」などの感想があり、看護職への敬意と憧れを一層深めるとともに、自らの進路の選択肢の1つとして考えていこうとする生徒たちの意欲が感じられました。

NEWS 3 イベント開催報告

文部科学省科学技術人材育成費補助事業

女性研究者研究活動支援事業 シンポジウム2013

シンポジウムの様子。

我が国の女性研究者の割合は年々増加していますが、欧米諸国と比べると、いまだ低い水準にあります。JSTは、文部科学省からの受託事業として、女性研究者がその能力を最大限発揮できる環境をつくる「女性研究者研究活動支援事業」を支援しています。近年、女性研究者数の増加や離職者の減少が見られるようになったため、その成果を検証し、今後の方策を模索する事を目的に、昨年11月11日に東京で6つの分科会とシンポジウムを開催しました。

女性研究者として、育児と研究活動を両立してきた情報・システム研究機構の郷通子理事の基調講演では、女性研究者が国際的により活躍する意義について、自身の経験を踏まえた意見が述べられました。東京都市大学の北澤宏一学長は、特別講演の冒頭で「挑発的な発言」と断りながら、女性研究者を多く採用した企業を税制で優遇する、大学内では研究予算の配分を多くするなど女性登用促進のための大胆な具体策の数々を提案。現場の意識改革や規則の定着化が実質的に重要とも強調しました。

今回、問題解決の足掛かりとして、シンポジウムに先立って分科会を開催し、本事業の各実施機関における成果や課題等の情報を共有しました。その内容がシンポジウム会場で報告されると、一般参加者を含む全員の知恵を集めて解決策を見出そうという狙い通り、活発な質疑が繰り広げられました。

「世界で活躍できる女性研究者の育成のために、研究・教育機関で求められているもの」をテーマにしたパネルディスカッションでは、会場参加者も交えた活発な討論が行われ、また中国と韓国から招かれた女性研究者からは、両国での女性研究者の置かれている現状なども紹介されました。

ポスターディスカッション、分科会討論を含めると、ほぼ終日の開催となりましたが、満席の会場は最後まで参加者の熱気に包まれました。本シンポジウムを機に、女性研究者の採用、支援に向けた各機関の自主的な取り組みが一層促進されることを期待します。

分科会の様子。

ポスターディスカッション。

意見交換会の様子。

NEWS 4 授賞式

科学コミュニケーションセンター　サイエンスアゴラ

サイエンスアゴラ賞授賞式を開催

特集号にちなみ、受賞団体の女性が集合!

昨年11月9日、10日に日本科学未来館等（東京・お台場）で開催された「サイエンスアゴラ2013」には、212団体から232プログラムの出展があり、8千人を越える参加者で大いに盛り上がりました。

サイエンスアゴラでは、出展企画内容の向上や科学コミュニケーション理念の促進を図ることを目的とした「サイエンスアゴラ賞」を設けています。今回は来場者による投票のほか、出展者がそれぞれの活動について相互に投票を行い、サイエンスアゴラ推進委員会にて、科学的妥当性、価値観・視点の多様性、手法・表現の適切性、完成度などの観点から評価をし、11の出展企画に「サイエンスアゴラ賞」を贈りました。これら受賞団体の中には、色の変化をテーマにした化学実験、ミニ新幹線、薬の副作用、消化器系、気象情報、科学絵本など親しみやすい題材を取り上げたものが多くありました。

授賞式は12月26日、日本科学未来館で行われ、毛利衛センター長から賞状が手渡されました。受賞者は「サイエンスアゴラでは来場者や出展者同士の交流ができた」、「この受賞が今後の励みになる」と喜びを話しました。

「サイエンスアゴラ2014」は今年11月8日、9日に行われます。出展者公募案内は4月頃開始予定です。次回も工夫を凝らした企画が集まることを期待しています。詳細はHP（http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/）をご覧ください。